総　合　分　野

授業科目	看護基礎セミナー	科目責任者	浜端　賢次	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件なし
				時間数	３０	受講セメスター	１年次前学期	

学習目的と到達目標		
	目的	大学で看護学を学ぶ基本を理解する
	到達目標	１．多様な年代の様々な立場にある人々の生き方を学ぶ。 ２．大学で学ぶことの基礎となるスタディ・スキルを習得する。

回数（1回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	大学での学び方①	［講義］オリエンテーション 大学生活をどのように過ごすのか、高校と大学での学びの違い、大学で何を学ぶのか。	浜端・小原
2	大学での学び方②	［講義］大学で学ぶための健康管理を考える 健康とは、健康づくりに関する要因、看護職が働く環境の特徴、看護職としての健康管理について学ぶ。	永井
3	大学での学び方③	［演習］セミナー担当教員と学生同士のディスカッション 自己紹介ならびにグループメンバーの状況を理解し、大学での学び方や学生生活で大切なことを共有する。	浜端ほか
4	レポートの書き方を学ぶ①	［講義］適切なレポートの書き方 レポート作成の基本と留意点、レポートの例示を踏まえた適切なレポート作成方法を学習する。	川上･小原
5	図書館の活用方法を学ぶ	［演習］大学図書館の機能と資料検索方法 オリエンテーションを受け、蔵書の分類方法と看護関連書籍の位置を確認する。また、情報メディアに触れ、資料検索方法のスキルを学習する。	浜端・図書館担当者
6	多様な年代の様々な立場にある人々の生き方を知る①	［演習］テーマ設定とグループディスカッションの運営方法 グループで話し合う内容を焦点化して、グループディスカッションに関連した書籍やDVD等を検討する。	セミナー担当教員
７～１２	多様な年代の様々な立場にある人々の生き方を知る②	［演習］グループディスカッション 選択した書籍やDVDを用いて、プレゼンテーションとグループディスカッションの計画を立案し実施する。プレゼンテーションでは資料を作成し、紹介したい内容について自己の考えを発表する。プレゼンテーション後は質疑応答と討論を行い、他者の考え方や学びを共有する。	セミナー担当教員
１３	自分の意見や考え方をまとめる	［演習］グループでの学びと自己の考え方 グループの学びを通して感じ考えたことを、自分の意見や考え方にまとめる。	セミナー担当教員
１４	まとめ	［演習］作成したレポートの確認 グループディスカッションでこれまで学んできた成果や大切な箇所等がレポートに活かされているか自己で確認する。さらに、教員からの助言や指導を活かしているか、再度レポートを点検する。	セミナー担当教員
１５	評価		浜端

教科書	なし	参考書等	「看護学生のためのよくわかる大学での学び方」前原澄子、金芳堂、２０１８年
履修条件	なし	評価方法	１．グループディスカッション（５０%） ２．レポート(５０%) ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	大学でさまざまな知識や経験を持つ人たちと関わり、スタディ・スキルを通じて看護学を学ぶ基本を理解する。また、書籍やDVD等を活用してグループディスカッションを行い、自己と他者の考え方や価値観等を学ぶ。 グループごとで提示された教材の予習をしてセミナーに臨み、スタディ・スキルで学んだ内容については復習を行う。 予習復習時間は１２時間以上。		

授業科目	文献講読セミナー	科目責任者	佐藤　幹代	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件なし
				時間数	３０	受講セメスター	２年次前学期	

学習目的と到達目標		
	目的	健康・人間・環境に関する研究成果の収集方法と理解するための基礎的知識を修得する。
	到達目標	１．健康・人間・環境に関する課題や疑問の解決につながる文献・情報の収集方法を説明する。 ２．文献・情報を読み解き、整理し、内容を説明する。

回数（1回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	文献検討とは	［講義］コースオリエンテーション 文献の定義と役割、文献検討の必要性を学習する。	佐藤
2	参考資料と情報源	［講義］情報の発生と流通、参考資料（辞典、法令･通達、社会状態や行政の取りくみ、統計データ、薬品）等と単行書、学術雑誌の構成について学習する。 資料の種類と構造について学習する。	佐藤
3	課題解決につながる関連するキーワードと検索方法	［講義］健康・人間・環境における課題に関連するキーワードの選定と、文献の調べ方について学習する。	佐藤
4	興味・関心のあるテーマ	［演習］各学生の興味・関心のある健康・人間・環境に関するテーマを持ち寄りグループで検討する。	担当教員
5	文献の講読方法	［講義］様々な和洋文献の講読方法について学習する。	佐々木
6	収集した文献整理と発表方法	［講義］収集した文献・情報の整理方法と口頭発表の方法について学習する。	佐々木
7	図書館の効果的活用と文献検索の実際Ⅰ	［演習］医中誌Web、J-STAGE、OPACなど主に和文献の検索方法について、パソコンを操作し、体験的に学習する。	担当教員 図書館司書
8	図書館の効果的活用と文献検索の実際Ⅱ	［演習］Pub Med、MEDLINE、CINAHLなど主に洋文献の検索方法について、パソコンを操作し、体験的に学習する。	担当教員 図書館司書
９～１４	調べたテーマに関するグループ討議	［演習］各自が関心あるテーマに関して調べた文献・情報をもとに、研究成果の収集方法と読み解いた内容について、発表資料を作成し討議する。 討議を踏まえて、発表資料の修正を行う。	担当教員
１５	評価		佐藤

教科書	「看護研究のための文献検索ガイド（第４版）」 山崎茂明・六本木淑恵 、日本看護協会出版会、 ２０１０年	参考書等	その都度、関連する文献・書籍を紹介する。 グループ別学習では、各学生の興味や関心にそって検索した参考書を使用する。
履修条件	なし	評価方法	１．発表資料の修正レポート（５０％） ２．プレゼンテーション（３０％） ３．参加態度（２０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	研究セミナー、看護総合セミナー、総合実習などを学習するための基盤となる科目である。指定教科書を含め関連する書籍や検索した文献を精読して授業や討議に臨み、講義後は講義資料に提示してある文献および、授業内容を復習するとともに、各自が検索した文献・情報を読み解き整理する。予習復習時間は１２時間以上。		

授業科目	研究セミナー	科目責任者	川野　亜津子	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件なし
				時間数	１５	受講セメスター	３年次後学期	

学習目的と到達目標		
	目的	看護実践を積み重ねる過程で専門性を深めていくための基本的な方法を理解する。
	到達目標	１．看護研究の目的と意義を説明する。 ２．看護研究方法の基本を説明する。 ３．看護実践課題の改善・充実に向けた研究の問いを表現する。

回数（1回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	研究とは	［講義］オリエンテーション 研究とは何か、研究の目的、研究者・研究対象者・研究協力者等研究に関わる人々について学習する。	川野
2	看護研究とは何か	［講義］看護研究とは何か、看護研究の目的と意義、研究の問いの源について学習する。	川野
3	研究の問いと研究方法	［講義］研究の問いと、それに応じた研究方法選択の重要性を学習する。	川野
4	研究のプロセス 研究計画の立案､研究成果のまとめ方	［講義］研究のプロセスを学習する。また、研究計画書の内容、論文の構成と書き方、報告・公表の方法を学習する。	川野
5	看護研究と倫理	［講義］看護研究における倫理とは何か、研究を進めていくために不可欠な倫理的配慮について学習する。	川野
６～８	文献検討による看護実践課題の整理と研究の問いの検討	［演習］これまでの講義・演習・実習から生じた疑問や自分自身の課題に関する文献検討を行い、研究成果を確認するとともに、看護実践課題の改善・充実に向けた研究の問いを検討し、レポートにまとめる。	川野・成田・角川・田村・小西・上野（知）・谷田部・二宮・前田・飯島

教科書	ナーシング・グラフィカ　基礎看護学④ 看護研究 前田ひとみ編集、メディカ出版、２０２３年	参考書等	第１回目の授業において複数の文献を紹介する。
履修条件	なし	評価方法	１.最終レポート（８５%）。但し、レポートに取り組む際はルーブリック（学習態度を含む、授業時配付）を参照すること。 ２.講義の事後課題（１５%） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	「看護基礎セミナー」や「文献講読セミナー」等で習得した、文献や情報を収集・検討する力を活かし、看護実践の改善・充実に向け創造的に探求するための能力を養う。「総合セミナー」の基盤となる科目である。受講前に文献検索方法について復習しておくこと、および教科書の該当箇所の予習・復習をしながら学習することが求められる。学生には、各自の研究課題を追求するために、考えを文章化する能力および、自分で学習する姿勢が求められる。 予習復習時間は２３時間以上とする。		

授業科目	看護総合セミナー	科目責任者	塚本　友栄	単位数	4	必修選択別	必修	履修条件 あり
				時間数	１２０	受講セメスター	４年次 通年	

学習目的と到達目標		
	目的	特定の看護実践課題に関する研究の問いに基づき研究計画を立てて看護研究に取り組み、その看護実践課題を改善・解決する方策を考察するとともに、社会の変革の方向をふまえた看護の発展を追求する姿勢を習得する。
	到達目標	１．総合実習ならびに医療や看護を取り巻く状況をふまえ、特定の看護実践課題に関する研究の問いを表現する。 ２．研究の問いから研究目的および研究に取り組む必要性を文献等も用いて明確にし、説明する。 ３．研究目的を追究するための研究方法を先行研究等も参考にして考え、説明する。 ４．研究計画に基づいて、総合実習等においてデータを収集する。 ５．収集したデータを分析し研究結果を記述する。 ６．結果に基づき、特定の看護実践課題を改善・解決する方策を文献等も用いて考察し、記述する。 ７．取り組んだ研究ならびに社会の変革の方向をふまえ、看護の発展のための考えや看護職としての自己の将来展望を述べる。

回数 （1回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１	オリエンテーション	［演習］ １．演習方法 学生はグループに分かれて学習する。	全教員
２～１５ （前学期）	特定の看護実践課題に関する研究の問いに基づく研究計画の検討	２．演習時期・演習内容 【前学期】（３０時間） ①　総合実習の計画立案過程ならびに医療や看護を取り巻く状況をふまえ、特定の看護実践課題に関する研究の問いを考える。 ②　研究の問いから研究目的および研究に取り組む必要性を文献等も用いて明確にする。 ③　研究目的を追究するための研究方法を先行研究等も参考にして考える。	全教員
１６～６０ （後学期）	研究計画に基づくデータ収集 データの分析およびデータの解釈と考察 研究レポートの作成 研究レポートの発表 看護の発展のための考えや看護職としての自己の将来展望の表明	【後学期】（９０時間） ④　研究計画に基づいて、総合実習等においてデータを収集する。 ⑤　収集したデータを分析し研究結果をまとめる。 ⑥　結果に基づき、特定の看護実践課題を改善・解決する方策を文献等も用いて考察し、研究レポートを完成させる。 ⑦　研究レポートの内容をグループ別の発表会において発表する。 ⑧　取り組んだ研究ならびに社会の変革の方向をふまえ、看護の発展のための考えや看護職としての自己の将来展望を表明する。	全教員

教科書	指定しない	参考書	なし
履修条件	・単位を取得していることが必要な科目 「文献講読セミナー」「研究セミナー」 「小児期看護実習」「周産期看護実習」 「診療看護実習」「老年期臨床看護実習」 「在宅看護実習」「精神保健看護実習」 「公衆衛生看護実習」 ・単位取得見込みが必要な科目　「総合実習」	評価方法	１.研究レポート（１００％） ２.セミナー参加態度（減点法） 上記を総合的に評価する。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	本科目は、「総合実習」と連動しながら学習を展開する。開講前に「文献講読セミナー」や「研究セミナー」の学習を振り返り本科目の学習を進めるために必要な知識を確認するとともに、自己の『看護実践における課題』について考えておくこと。看護実践における課題の明確化や分析・考察等、研究レポート作成のために必要な自己学習を行うとともに、教員等の助言・指導により自己の学習過程を振り返りながら研究レポートを作成すること。予習復習時間は４８時間以上。自ら行動計画を立案して取り組む姿勢が求められる。		

授業科目	看護トピックス	科目責任者	小原　泉	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件なし
				時間数	３０	受講セメスター	４年次後学期	

学習目的と到達目標		
	目的	高度医療の場や地域の保健医療福祉の現場における現在の看護実践の課題を理解し、将来展望をもつ。
	到達目標	１．現在の看護実践における課題を説明する。 ２．将来の看護実践のあり方について、考えを述べる。 ３．卒業を前に、自己の看護職としての心構えと将来展望について、考えを述べる。

回数（1回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
１～６	現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題の理解①	［講義・演習］高度医療の場における看護、へき地看護、その他医療・看護の現場で注目すべきトピックスや教員の専門領域にかかわるテーマから、現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題を学習する。 ・７テーマ程度を設定し、学生はいずれか一つのテーマを選択し、学習する。	全教員
７・８	現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題の理解②	［演習］・学内や学外で行われる学会、講演会、公開講座等に参加し、医療・看護の現場で注目すべきトピックスや現在の看護実践に関わる注目すべき内容や課題を学習する。 ・学生は自己の関心に応じて主体的に参加し、学習する。	全教員
９～１５	４年間の学習の振り返りと将来展望を踏まえた自己の学習課題の明確化	［講義・演習］講義を通して様々な看護実践の対象、場や方法について理解を深め、将来の看護実践のあり方や自己の将来展望を考える。	全教員

教科書	指定しない	参考書等	なし
履修条件	なし	評価方法	１）１～６回 テーマ毎に、学習態度、記録物などで評価する（６０％） ２）７・８回 レポートで評価する（２０％） ３）９～１５回 学習態度で評価する（２０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	これまでの学習を踏まえて、高度医療の場、へき地、その他医療・看護の現場における現在の看護実践の課題を理解し、将来展望をもつ科目である。各回に対して出された課題について、予習・復習して学習を進めること。予習復習時間は１２時間以上とする。１～６回は、各看護学科目における授業、７・８回は、学会、講演会、公開講座などへの参加、９～１５回は、全体講義を実施する。最高学年に相応しい学習態度で臨むこと。		

授業科目	多職種連携論Ⅰ （医療チーム）	科目責任者	渡邉　賢治	単位数	1	必修選択別	必修	履修条件 なし
				時間数	１５	受講セメスター	２年次 後学期	

学習目的と到達目標		
	目的	様々な医療現場における多職種連携・協働の実際と、多職種連携・協働を維持・発展させるための看護職の役割を学習する。
	到達目標	１．様々な医療現場における多職種連携を高めるチーム医療の機能と構成について説明する。 ２．様々な医療現場における多職種連携・協働の現状と課題を説明する。 ３．多職種連携・協働における看護職の果たす役割について説明する。

回数 （1回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	チーム医療と多職種連携・協働の特質	［講義］チーム医療の概念、チーム医療の条件・意義、様々な医療現場における多職種連携・協働の特質について学習する。	村上
2	多職種連携・協働の実際（1）（急性期）	［講義］急性期における多職種連携・協働の実際と看護職の役割について学習する。	古島
3	多職種連携・協働の実際（2）（回復期・慢性期）	［講義］回復期・慢性期における多職種連携・協働の実際と看護職の役割について学習する。	長谷川
4	多職種連携・協働の実際（3）（エンド・オブ・ライフケア）	［講義］エンド・オブ・ライフケアにおける多職種連携・協働の実際と看護職の役割について学習する。	渡邉
５～８	多職種連携・協働の現状と課題、看護職の果たす役割の検討	［演習］多職種連携・協働の現状と課題ならびに看護職の果たす役割について、それぞれグループ毎にテーマを設定し、文献検討及びグループ学習を行う。その成果について、プレゼンテーションを行い他者からの意見や質問を踏まえて、レポートを作成する。	渡邉・村上・長谷川・佐藤・古島・舘沼・小川

教科書	指定しない	参考書等	その都度、関連する文献・書籍を紹介する。グループ学習では、各学生の興味や関心にそって検索した参考書を使用する。
履修条件	なし	評価方法	１．課題レポート　（１００％） ２．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	様々な医療現場において、対象者にとって必要な医療の提供に向けた多職種との連携・協働のあり方を追求する学習姿勢を求める。これまでの授業や実習の知識・経験を本科目の学習内容と照らし合わせ想起して授業に臨むこと。事後では、多職種との連携・協働について自らの考えを深められるよう復習をすること。予習復習時間は２３時間以上。		

授業科目	多職種連携論Ⅱ (ヘルスケアチーム)	科目責任者	塚本　友栄	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件 なし
				時間数	１５	受講セメスター	４年次 後学期	

学習目的と到達目標		
	目的	地域で生活する人々を支える多職種連携・協働の目的と看護職の役割を理解し、多職種連携・協働のための基礎的実践力を習得する。
	到達目標	１．地域で生活する人々を支える多職種連携・協働の目的と看護職の役割を説明する。 ２．地域で生活する人々を支える他職種との連携・協働に必要な基礎知識および方法論を説明する。 ３．地域で生活する人々を支える多職種連携・協働の課題及びその課題に対応する連携・協働のあり方についての考えを表現する。

回数 （1回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	地域で生活する人々を支える多職種連携・協働の目的 地域で生活する人々を支える他職種との連携・協働に必要な基礎知識	［講義］わが国の保健医療福祉の動向と多職種連携との関連について理解する。 保健医療福祉介護サービスの継続性の保障（又は生活の質の継続性の保障）と多職種連携との関連について理解する。 多職種連携の概念およびコミュニケーションと合意形成、効果的なカンファレンス、地域資源の活用、ネットワーク等の連携・協働に関する基礎知識を理解する。	塚本
2	療養場所の移行に伴う多職種連携・協働１	［講義］障害者の地域移行支援・地域定着支援における多職種連携・協働の目的・方法・看護職の役割・課題について、単身の精神障害者の事例をとおして理解する。	半澤
3	療養場所の移行に伴う多職種連携・協働２	［講義］退院支援における多職種連携・協働の目的・方法・看護職の役割・課題について、事例をとおして理解する。	塚本
4	地域包括ケアシステムと多職種連携	［講義］地域包括ケアシステムにおける多職種連携・協働の目的・方法・看護職の役割・課題について、事例をとおして理解する。	春山
５～８	多職種連携演習 (医学部との合同演習)	［演習］療養場所移行に向けた患者・家族の課題解決を目指すことを目的とした多職種および家族とのカンファレンスのロールプレイをとおして、多職種連携・協働のあり方を考える。	塚本・春山 島田・青木

教科書	指定しない	参考書等	なし
履修条件		評価方法	１．演習後の記録物（７０％） ２．演習前の記録物（３０％） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	病院から地域への移行期支援を中心に取り上げる。対象者にとって必要なケア提供に向けた多職種との連携・協働のあり方を深く追求する学習姿勢が求められる。保健医療福祉に関わる多職種の役割、地域包括ケアの概念、介護保険制度、障害者総合支援法等に関する復習、ロールプレイを用いた多職種連携演習開始前には演習事例の理解と必要な支援の検討、演習前後の記録物の作成等、自己学習を行うこと。予習復習時間は２３時間以上。		

授業科目	がん看護学	科目責任者	石井　容子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件なし
				時間数	１５	受講セメスター	２・４年次後学期	

学習目的と到達目標		
	目的	がんが対象の生命や生活に与える影響を理解し、がんとともに生きる対象に必要な看護を学習する。
	到達目標	１．がんおよびがん治療の特徴を理解し、がんが対象の生命や生活に与える影響を説明する。 ２．緩和ケアの概念を理解し、対象の苦痛を緩和する看護実践を説明する。 ３．がんとともに生きる対象を理解し、対象の生活の質を高める看護実践を説明する。

回数（1回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	がんおよびがん治療の特徴と緩和ケア	［講義］ がんの特徴、がんの診断や治療が対象の生命や生活に与える影響、および緩和ケアの概念について学習する。	石井
2	がん治療を受ける対象に必要な看護	［講義］ がんに対する薬物療法および放射線療法を受ける対象に必要な看護について学習する。	小原
3	がんとともに生きる対象の生活の理解と看護	［講義］ がんとともに生きる対象の生活と必要な看護について学習する。	石井
4	がんとともに生きる対象の在宅療養への移行と継続に関する看護	［講義］ がんとともに生きる対象の在宅療養への移行と継続に必要な看護について学習する。	鮎澤
5	がんとともに生きる小児・AYA 世代および高齢の対象の理解と看護	［講義］ がんとともに生きる小児・AYA 世代および高齢の対象の特徴と必要な看護について学習する。	今野
6	苦痛緩和と生活の質を高める看護（1）：症状緩和	［講義］ がんに伴う症状（痛み、リンパ浮腫、倦怠感など）が患者の生命・生活に与える影響と必要な緩和ケアについて学習する。	小松崎
7	苦痛緩和と生活の質を高める看護（2）：エンド・オブ・ライフ・ケア	［講義］ 死の予期が対象（家族を含む）に与える影響、生き抜くことを支える看護、死別後の家族への看護について学習する。	岩永
8	評価	レポート	石井

教科書	指定なし	参考書等	「がんサバイバーシップーがんとともに生きる人びとへの看護ケア 第２版」 近藤まゆみ・久保五月編著、医歯薬出版、２０１９年 「系統看護学講座別巻 緩和ケア（第３版）」恒藤暁・内布敦子編、医学書院、２０２０年
履修条件	なし	評価方法	１．レポート（８０％） ２．学習態度（２０％） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	臨地実習や卒後の看護実践の場で、がん患者を担当することが多いため、本科目を選択履習することでがんと共に生きる患者・家族に必要な看護について学習を深め、その後の実習や看護実践の場で学びを生かしていくことを期待する。予習や復習時間には２３時間以上を必要とする。レポートテーマは後日提示する。		

授業科目	へき地の生活と看護	科目責任者	半澤　節子	単位数	1	必修選択別	選択	履修条件なし
				時間数	３０	受講セメスター	１～４年次後学期	

学習目的と到達目標		
	目的	へき地に住む人々の生活と看護の特徴を理解する。
	到達目標	１．へき地に住む人々の生活と健康との関連を説明する。 ２．へき地における看護実践の機能と役割、地域の社会資源の整備状況を説明する。 ３．１と２からへき地における看護の特徴を説明する。

回数（1回９０分）	学習課題	学習内容ならびに方法	担当教員
1	オリエンテーション	［講義］オリエンテーション 学習目的、学習目標、学習方法、臨地演習施設の概要、科目の進め方、評価について学ぶ。	青木・半澤
2	へき地と地域住民の生活の理解（1）	［演習］・へき地の意味を知り、地域特性と生活との関連について情報収集およびグループワークを通して考える。	青木・半澤
3	へき地と地域住民の生活の理解（2）	［演習］臨地演習施設やその地域に関する情報収集および調べ学習を通して、各自の興味関心をもとに学習目標を設定する。	半澤・川野・田村・八木・青木・市川・古島・鹿野・佐々木・路川・谷田部 (以下、担当教員)
4	へき地と地域住民の生活の理解（3）	［講義］へき地で行われている医療や看護について理解する。さまざまな看護実践と人々の生活のかかわりについて学ぶ。	青木・半澤 臨地教員
５～１４	臨地における演習 ①　へき地における看護実践 ②　保健医療福祉活動の見学・体験	［演習］国内外の臨地演習施設において、学習課題の達成と自己の学習目標の達成を目指して学習する。 (おもな演習内容) 出張診療、巡回診療、訪問診療、訪問看護、居宅介護支援、デイケア、訪問リハビリテーション、レクリエーションの見学や体験　等	担当教員
１５	へき地の看護実践の実際と住民の生活との関連	［演習］・演習での学びを報告し、へき地での看護職の役割について討議し、演習の学びを整理し、今後の自己の学習課題を考える。	担当教員

教科書	指定なし	参考書等	なし
履修条件	なし	評価方法	１．授業で提出を求める記録物（５０%） ２．課題レポート（５０%） ３．学習態度（減点法） 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	受講者はへき地等の看護に興味を持っている学生である。１～４回および１５回は学内、５～１４回は臨地にて実施する。【予習・復習について】学習進度に合わせて目的・目標を達成するための自己目標を立てる。事前に臨地演習施設一覧により各臨地演習施設の所在地や演習内容を把握して臨む。学習課題ごとに、指示した内容について、予習・復習を行う。予習復習時間は１２時間以上。		

授業科目	総合実習	科目責任者	春山　早苗	単位数	3	必修選択別	必修	履修条件 あり
				時間数	１３５	受講セメスター	４年次 前学期	

学習目的と到達目標	目的	自己の看護実践における課題をふまえ、看護を展開するための総合的能力を養う。
	到達目標	１．自己の看護実践における課題を明確にし、説明する。 ２．理論的知識や先行研究の成果を活用して看護計画を説明する。 ３．対象および看護実践の場の特性をふまえ、根拠に基づいた看護を主体的に実践する。 ４．対象の権利や人権を護るため、倫理的課題をふまえた看護を実践する。 ５．対象の健康課題に応じた地域資源利用のための看護の実践方法を説明する。 ６．看護職間、他職種・他部門・他機関、さらには様々な人々と連携・協働して、地域ケア体制を構築する目的と方法を説明する。 ７．実習施設の地域における機能ならびに看護職の役割について考えを述べる。

	学習内容ならびに方法
実習期間	１５日間
実習場所	（1）　高度医療の場（自治医科大学附属病院など） （2）　へき地を含む地域、その他のフィールド（市町村保健福祉センター、訪問看護ステーション、介護老人保健施設、社会復帰施設、グループホーム、事業場、診療所、助産所など）
担当教員	看護系全教員
実習内容	（1）　原則、所定の期間に臨地で実習する。実習日程は各グループにおいて調整可能であるが、必ず前学期で実習を終える。 （2）　学生自らが実習目標及び実習方法を計画立案し、臨地の指導者等と調整しながら看護を展開し、その評価を行う。
実習方法	・　４月初旬の全体オリエンテーションにおいて、要項を配付し概要を示す。「看護実践における課題に関するアンケート」を指定の日時までに提出する。 ・　各学生の看護実践における課題に基づきグループ分けを行い、グループ毎に学習する。 ・　これまでの学習を踏まえながら、自己の看護実践における課題を見出す。 ・　各実習場所における実習方法の詳細については、グループ別のオリエンテーション時に説明をする。 ・　「看護総合セミナー」において取り組む看護研究もふまえながら、実習施設の特性および受け持つ対象の特性などに応じて実施可能な実習計画を立案し看護を実践する。 ・　実習最終日には、グループ毎に到達目標に沿って討議し、実習全体の学びを統合して実習のまとめを行う。 ・　到達目標６、７に関連して、グループを越えたカンファレンスまたはグループワークを行う。

履修条件	・ 単位を取得していることが必要な科目： ・「小児期看護実習」「周産期看護実習」「診療看護実習」「老年期看護実習」「在宅看護実習」「精神保健看護実習」「公衆衛生看護実習」	評価方法	実習内容、実習態度、実習記録物、各種カンファレンスの参加状況から総合的に評価する。 【評価のフィードバック方法】 学生に講評する
備考	・予習として、「文献講読セミナー」及び「研究セミナー」における学習内容をよく復習しながら、自己の看護実践における課題に関連する資料や文献等について、情報収集して臨む。 ・自己の看護実践における課題を明確にしつつ、自ら行動計画を立案し、主体的に実習を行う。 ・「看護総合セミナー」と連動しながら学習を展開し、実習における自己の実践をよく振り返り、「看護総合セミナー」の学習を深められるようにする。予習復習時間は６時間以上。 本科目では、看護職としての実務家教員らが、その経験と知識を活用して指導する。		